

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【和土小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	国語の「漢字を文の中で正しく使うこと」では、どの学年においても課題が見られたので、漢字の書き方の練習に加え、その漢字を使った熟語を調べたり、自分で文を作ったりするなど、文章の中で使うことを意識した指導を行っていく。また、授業中や日常生活の中で、分からない言葉に出会った場合には、すぐにその言葉を調べる習慣を身に付けさせるために、日頃から国語辞典やタブレットを使って言葉を調べる活動を取り入れていく。算数の「数と計算」では、小数の引き算や小數わり算の計算に課題が見られたので、反復学習をするとともに、計算の方法だけではなく計算の仕組みや計算が使われる場面を考える活動を大切にしていこう。また、具体物を用いたり、小数点を揃えたり、整数に直して計算させたりする指導を丁寧に行っていく。
思考・判断・表現	全体的には思考・判断・表現力の向上が見られたが、個人差や教科間による差が大きいことが課題である。具体的には、国語に限らず話し合い活動を行う際には、相手と意見の同じところや、違うところに着目させて、考えをまとめることを意識させる。また、相手の伝えたいことが何かを考えたり、整理したりしながら、聞くことができるような教育活動を各教科の指導の中で教科横断的に行っていく。算数では、問題文と図を指し示しながら丁寧に説明したり、図や式などを用いて数量の関係を表して読み取ったりする活動を繰り返し行っていく。また、各教科の授業で根拠を基に、自己の考えを説明したりまとめる活動を引き続き重視していきたい。

今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題>国語の「文の中の主語と述語の関係を理解すること」に課題がある。</p> <p><指導上の課題>児童が反復・習熟に取り組む時間や自らの学びを振り返る時間の設定が不十分である。</p>	<p>⇒ 教科横断的な視点で、主語と述語を意識して文を読んだり書いたりさせることを繰り返し取り組むことで定着を図る。【毎時間設定】</p> <p>⇒ 授業の導入で既習事項を振り返る時間を設定したり、授業のまとめで自らの学びを振り返る時間を設定したりして、学びに生かせるようにする。【毎時間設定】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題>国語では集めた情報の関連付け、算数では数量関係と資料の関連付けについて課題がある。</p> <p><指導上の課題>資料の見方に対する指導や根拠をもとに自己の考えをまとめる活動時間の確保が不十分である。</p>	<p>⇒ 授業で資料を用いた際に見る視点や単位の着目など意図的な発問をすることにより、資料の見方を高める。【単元毎設定】</p> <p>⇒ タブレット等を活用した「協働的な学び」を通して、考えたり自分の考えの根拠を表現したりする時間を確保する。【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】</p>

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で自分の考えや根拠を書く際に、「主語と述語を明確にしながらかくこと」を意識させて取り組んだことで、R6年度さいたま市学習状況調査の国語「言葉の使い方や使いに関する事項」では、R5年度の結果を上回った。今後も学校全体でこの活動を継続して取り組んでいく。 授業の導入において既習事項の確認をしたことで、児童が学習の見通しをもって授業に臨むことができた。また、まとめで自らの学びを振り返る時間を設定したことで、自らの学びを生かして各々の課題を見つたりすることができた。さらに、習熟の時間の確保に努めたことで、各教科における知識・技能の向上につながった。
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業で資料を用いた際に見る視点や単位の着目などについて意図的に発問をする取組を行ったり、児童が集めた情報や数量関係と資料の関連付けをそれぞれ行ったりしたことで、資料から読み取る力を高めることができた。また、自分の考えをもたせることや理由を考えさせることを継続して指導してきたことで、R6年度さいたま市学習状況調査の国語「思考・判断・表現」では、R5年度の結果を上回った。 タブレット等を活用した「協働的な学び」を通して、考えたり自分の考えの根拠を表現したりする時間を確保してきた。その結果、令和6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は平均して98%となった。今後もICTを活用した共同編集や児童同士で質問や説明をする話し合い活動を通して、友達と協力しながら課題解決していく学習の探求に取り組んでいく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では特に「言葉の特徴や使い方にに関する事項」に課題が見られた。その中で、「文の中における主語・述語の関係を捉えること」の問題で誤答が多い。解答類型を見てみると述語のすぐ上にある単語を主語と捉えている児童が多く、主語に対する理解が不十分であると考えられる。また、「話し言葉と書き言葉の違いに気付くこと」や「漢字を文の中で正しく使うこと」の問題に課題がみられた。教科横断的に児童が、「主語・述語の関係」や「話し言葉と書き言葉の違い」、「漢字を文の中で正しく使うこと」を意識して読んだり書いたりできるような授業改善を図り、知識・技能の定着につなげる。
思考・判断・表現	算数では特に「変化と関係」「図形」や「データの活用」の領域において課題が見られた。解答類型を見てみると答えはわかっていても、「なぜその答えになるのか」という説明を書くことができない児童が多い。このことから、児童が式や答えの求め方を複数考えさせたり答えの理由を自分の言葉で説明させたりする活動を重視していく。また、児童質問の「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は91.6%であった。このことから、今後も協働的な学びの機会を確保して主体的・対話的で深い学びにつなげる。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「正しい漢字に直す問題」において、どの学年も課題が見られた。その漢字の意味を考えて使うことができていないと考えられる。一方で、「文の中の主語と述語の関係を理解すること」の問題で、一部の学年では改善が見られたので、引き続き教科横断的に主語と述語を意識して文を読んだり書いたりする指導を行っていく。算数においては類似問題の経年での比較より、「図形に関する問題」で正答率の上昇が見られた。しかし、「数と計算」では小数の引き算や小數わり算の計算に課題が見られたので、反復学習をするとともに、計算の仕組みや計算が使われる場面を考える活動を大切にしていこう。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」において、昨年度の結果と比べると改善が見られた。しかし、中学年では「聞くこと」において課題が見られた。これは聞く際に、話し手が伝えたいことの中心を捉えることができていないためだと考えられる。授業や日常生活の中で話を聞く際に、「主語と述語の関係を意識させて聞くこと」や「必要なことを記録して聞くこと」を継続して指導することで改善につなげたい。また高学年では、「書くこと」において課題が見られた。これは書く際に、自分の考えが伝わるように書き表すことができていないためだと考えられる。書く際に、「誰に何を伝えたいのかをはっきりさせること」や「言葉の順序を変えて強調すること」、「呼びかける表現にすること」、「キーワードで伝えること」などの表現方法の工夫を具体的に提示することで、それらを活用しながら書く力を身に付けさせたい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語を意識して文を読んだり書いたりする活動を取り入れ、文章を読む力を養っていく。 授業の導入で既習事項の確認やまとめで自らの学びを振り返りを丁寧かつ確実にしていく。また、習熟の時間の確保に努め、知識・技能の定着を一層推進していく。 	変更なし
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業で資料を用いた際に見る視点や単位の着目などについて意図的に発問をする取組をより丁寧に行っていく。また、自分の考えをもたせることや理由を考えさせることもくり返し指導していく。 R6年度全国学力・学習状況調査で、「協働的な学び」について児童の肯定的な回答が90%以上だった。今後もICTを活用しての共同編集や児童の実態に応じた効果的な「協働的な学び」の探求に取り組んでいく。 	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)